

A stylized illustration of a person with dark hair, wearing a bright blue robe, captured in a dynamic pose. The person is holding a red object, possibly a fan or a sword, aloft in their right hand. The background is a solid light beige color, with a large, curved yellow shape on the left side. The person's left leg is extended forward, and their right leg is bent, suggesting a dance or a theatrical movement. The overall style is minimalist and graphic.

●萩原朔太郎生誕140年記念



前橋文学館

[illegible]

デザイン STUDIO VISION 居城達志



萩原朝太郎自筆資料など(全て当館蔵)



◎アクセス◎

電 車：JR前橋駅北口から徒歩約15分／タクシーで約10分
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分
バ ス：JR前橋駅北口バスのりば
・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)
「中央前橋駅」下車 徒歩約5分
・6番のりばから「荻窪公園・嶺公園」行き
「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分
自動車：関越自動車道 前橋ICから車で約15分
※広瀬川サンパーク(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に
割引処理をいたします。



萩原朝太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp>

●萩原朝太郎生誕140年記念
前橋文学館コレクション展
悪筆。文字書体
をなさず。
冷汗冷汗。
「萩原朝太郎と文字」
わたしたちが普段にげなく目に
している「文字」。文字について考え
る機会はないかありませんが、あ
らためてふりかえると、わたしたち
は毎日スマートフォンやパソコンな
どで大量の文字情報を受発信する一方
手書きの文字は消えつつあります。
手書きの文字には書き手の個性が
あらわれ、文字が示す内容だけでは
なく、書いた場面や書き手の想
いなど、その背景までも読み
とれるようです。手書きの文
字は誰とともいえるでしょう。
本展では、当館が収蔵する萩原朝
太郎の資料から、直筆の原稿や書簡
を中心に「文字」を手がかりに、朝
太郎の視点や垣間見えるものをさ
ざまな角度から検証します。同時に、
デジタル社会の現代において「文字
を書く」ことを今いちど考えます。
また本展のために、萩原朝太郎賞
ゆかりの方々に、朝太郎の詩を手書
きで書き下ろしていただきました。
ぜひ会場でご覧ください。

申込み(先着順)は2月20日(金) 9時より前橋文学館へ。(Tel: 027-235-8011)

◎オープニング・イベント

書家・沢村澄子によるパフォーマンス
「悪筆ニテ、モノ申す!」

日 時 3月21日(土) 14時～

会 場 1階ロビー

参加費 無料

制作された作品は、展覧会会期中1フロアに展示されます。

要予約・定員50名

沢村澄子

1962年大阪市生まれ。1985年新潟大学教育学部
特設書道科卒業。新潟大学在学中より個展を中心
とした作品発表を続け、100回を超える。国内外
でのワークショップやパフォーマンス、他ジャン
ルとのコラボレーション、グループ展などにも積極
的に参加。書を「書くこと(Writing)」と定義し、
「描かないこと(Notdrawing)」で自作と絵画を分
別する。2019年第29回宮沢賢治賞
奨励賞、2023年第73回芸術選奨文
部科学大臣賞(美術部門)受賞ほか。

沢村澄子 web site



◎担当学芸員によるギャラリーガイド(予約不要) 4月25日(土)14時～

同時
開催

前橋文学館

共催展「よみぐすり、処方します。処方箋文庫」
2026年3月20日(金・祝)～5月17日(日)

アーツ前橋

「塩原友子展」

2026年4月25日(土)～6月14日(日)



石神の丘美術館にて